

令和1年度 公益財団法人ホシザキグリーン財団 事業報告

(自：平成31年4月1日 至：令和2年3月31日)

【概要】

人と自然の調和した自然環境の保全に資することを目的とし、野生動植物の保護繁殖に関する各事業に取り組んだ。実施した主な事業は次のとおりである。

I. 事業部門

1. 野生生物研究所事業 (定款第4条 第1項 第1、3、5号該当事業)

- (1) 調査研究・情報収集発信事業を中心に、宍道湖グリーンパークやふるさと尺の内公園の環境整備の検討のほか、各種の普及啓発活動も含めた財団の幅広い事業を支えるべく運営を行った。
- (2) 調査研究や普及啓発事業に必要な資料(文献・標本等)の収集・保存、それらを活用するための整理など活動基盤を維持する拠点として運営を行った。
- (3) 標本室と図書室の温度や湿度などを管理した。
- (4) 野生生物研究所の実習室を、宍道湖グリーンパークの団体対応や観察会などの室内プログラムの実施場所の一つとして運用した(年間29件、のべ1,193人)。

2. 宍道湖グリーンパーク事業 (定款第4条 第1項 第2、3号該当事業)

- (1) ビオトープならびに公園施設として宍道湖グリーンパークおよびビオトープ池の適切な管理を行った。
- (2) 園内の維持管理は昆虫や野鳥など野生動植物の生息に配慮して実施し、除草・剪定作業による発生材の一部は小動物のすみかとするべく、木積や腐葉土として堆積して利用した。
- (3) 園内のゾーニングプランに基づき、各ゾーンの維持管理を行った。
- (4) 野鳥観察舎や園内に鳥類や昆虫類、植物などの解説を掲示し、フィールド情報を時節にあわせて更新するなどの掲示物の管理を行った。
- (5) 昨年度より全面改修工事を行っていた野鳥観察舎をリニューアルオープンした(4/19)。
- (6) 野鳥観察舎において、捕虫網の貸し出しや季節の生物のぬりえの配布、スタンプコーナーの設置などのサービスを実施した。
- (7) 野鳥観察舎の企画展コーナーにおいて、企画展以外の期間も時節にあわせた自然に関する展示の切り替えを行った。
- (8) ペンギンミュージアム(約2,000点のペンギングッズを展示)の管理を行った。
- (9) グリーンパーク北側のビオトープ池において、水位調節機能を向上させた堰構造により、水鳥の飛来時期に合わせた水位調節を実施した。
- (10) ビオトープ池の特に浅い中池では、耕起による除草を行い、水面の確保ならびに水鳥の飛来しやすい環境を維持した。

- (11) ビオトープ池の下池では希少な植物であるタコノアシの生息環境を維持管理したほか、水路に進出して拡大傾向にあった抽水植物群落の除去を行った。
- (12) 白鳥の採食場として、グリーンパーク周辺農地約 10ha に地権者の協力を得て水を張り、飛来環境の整備を実施した。
- (13) 野鳥観察舎等で年間 62,774 人の利用者があった（開園より 612,151 人）。
- (14) 団体等の利用申し込みは 118 件（のべ 3,555 人）であり、そのうち野鳥観察などのプログラムやレクチャーを伴う体験活動は年間 59 件（のべ 1,752 人）、施設の見学などの利用が 59 件（のべ 1,803 人）であった。

3. ふるさと尺の内公園事業（定款第 4 条 第 1 項 第 2、3 号該当事業）

- (1) ビオトープならびに公園施設として尺の内公園の適切な管理を行った。
- (2) 園内のさらなる魅力向上として取り組んでいる環境整備について、ランドスケープデザイナーのポール・スミザー氏の監修に基づいた維持管理や部分的な整備を行った（主として水辺の植栽および石積み・木積の設置など）。
- (3) 園内の人工池を活用してオニバスの系統保護のための試験やモニタリング等を継続した。
- (4) アメリカザリガニやキシノウブなど園内にすむ侵略的外来種の回収を行い、在来生物への影響の低減を図った。
- (5) 園内の池に発生する藻類の回収を行うなどして水質の維持を行った。
- (6) 管理棟の草屋根に植栽した多年草の在来植物を維持する管理をした。
- (7) 管理棟の機能向上のため、観察会や園内整備に必要な備品を整備した。
- (8) 園内のサインを再検討し、案内看板と掲示板を設置した。
- (9) 季節変化や花の時期に合わせて種名板を更新した。
- (10) 乾燥裸地のビオトープとして整備した隣接地の環境を維持し、モニタリング調査を継続した。
- (11) 公園に隣接する丘陵地に植栽したクヌギや草地環境を維持するための草刈りを行った。
- (12) 丘陵地を里山林として維持するために管理道の草刈りや雑木林の小径木伐採などの手入れを行った。

4. 調査研究事業（定款第 4 条 第 1 項 第 1、2 号該当事業）

- (1) 職員による自主研究を次の課題で取り組んだ。

〈鳥類研究〉

- ① 鳥類の環境利用特性の研究
- ② マガン・ヒシクイ・コハクチョウの日周行動特性の研究
- ③ 特定鳥類の生息状況調査（しまねレッドデータブック掲載種、県内繁殖情報不足種、注目種等）
- ④ 鳥類生息情報の集積
- ⑤ 尺の内公園の鳥類調査

- ⑥ グリーンパーク周辺の鳥類定量カウント調査
- ⑦ 白鳥の採食場の利用状況モニタリング
- ⑧ ビオトープ池の鳥類調査

〈昆虫類研究〉

- ① ネクイハムシ亜科の進化生物学的研究
- ② 日本産水生甲虫類の分類学的研究
- ③ 島根県の水生昆虫類の保全生物学的研究
- ④ 山陰の海岸に生息する昆虫類や節足動物に関する研究
- ⑤ 隠岐諸島における昆虫類の生態学的研究（共同研究）
- ⑥ 中国地方の湿岩昆虫相の解明（共同研究）
- ⑦ 島根県産昆虫目録作成のための基礎調査
- ⑧ グリーンパーク昆虫類調査
- ⑨ 尺の内公園の昆虫類調査

〈植物研究〉

- ① 島根県産植物の調査ならびに染色体観察
- ② 特定植物種の産地や形態に関する調査と染色体観察
- ③ 特定植物種の分類学的研究
- ④ オニバスの保護増殖に係る生育調査
- ⑤ 尺の内公園の植物調査
- ⑥ 絶滅危惧植物の生育環境に関する実験調査

〈その他〉

- ① 島根県の淡水・汽水生物の調査
 - ② ビオトープ池の生物調査
 - ③ 島根県の水生生物の遺伝的多様性の調査
- (2) 共同研究として「島根県産甲虫類の分類学的・生態学的研究」「隠岐諸島における昆虫相の解明」「山陰地方の送粉サービスに関する生態学的研究」の3課題を実施した。
- (3) 調査協力として、環境省が実施しているモニタリングサイト1000などの全国的な生物調査や島根県より外来生物（昆虫・クモ）の同定依頼などに協力した。
- (4) 委託研究として「山陰地方の希少昆虫に関する基礎調査」「隠岐産鳥類および昆虫リスト作成のための基礎調査」「島根県のヒル類調査」など8課題を委託して実施した。
- (5) 環境修復プロジェクトとして、松江市堀川のミシシippアカミミガメをはじめとした生物調査や雲南市の沢池の生態系修復プロジェクトを推進するなどした。
- (6) 宍道湖自然館のシラウオ周年展示を支援すべく、シラウオ量産技術開発として飼育環境の整備ならびに飼育試験を継続するとともに、展示用水槽を設置した。
- (7) 研究体制を維持するため7名の客員研究員を委嘱した。
- (8) 財団の研究報告書や環境修復プロジェクト報告書をはじめ、他団体発行誌に41題の研究論文や短報などを発表した。
- (9) 学会や研修会等で14題の発表を行った。

- (10) 「ホシザキグリーン財団研究報告 第 23 号」を発行した(論文 20 題、短報 13 題、資料 7 題; 286 頁)。
- (11) 「ホシザキグリーン財団研究報告 特別号」を発行した。
- ・ 第 24 号 宍道湖グリーンパークの昆虫調査 II (109 頁)
 - ・ 第 25 号 改定 島根県の水生甲虫 (1) (84 頁)
- (12) 「2019 年度ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト報告書」を発行した (報告 5 題、短報 3 題 ; 92 頁)。

5. 普及啓発事業 (定款第 4 条 第 1 項 第 4 号該当事業)

(1) 宍道湖グリーンパークで以下の企画を実施した。

① 自然観察会やイベント

- ・ 定例自然観察会をパークボランティアを主体として 10 回 (5 月～翌年 2 月の各月 1 回) 実施した。
- ・ 野鳥観察舎竣工式及びオープニングセレモニーを実施した (4/19)。
- ・ 春の大型連休 (4/27-5/6) のイベントとして、「春のバードウォッチング (4/27)」、「日替わり工作 (5/3-6)」を実施した。
- ・ 「マガンとコハクチョウの初渡来日予想 (オリジナルノートプレゼント)」企画を実施した (8/17-9/30)。
- ・ 「マガン 1,000 羽越え日予想 (オリジナルノートプレゼント)」企画を実施した (10/2-21)。
- ・ 宍道湖・中海 ラムサール条約登録月イベントとして「グリーンパークでオリジナルカレンダーを作ろう」(11/2-4) を実施した。
- ・ お正月の先着プレゼント (オリジナルクリアファイル) 企画を実施した (1/1-5)。
- ・ 世界湿地の日に因んだ工作イベントとして「宍道湖めぐみで工作を楽しもう！」(2/8, 9, 11) を実施した。

② 企画展

- ・ 野鳥観察舎で夏の企画展「虫採り道具のひみつ」を開催した (7/10-9/2)。
- ・ 展示期間中に夏の企画展特別イベント「昆虫を観察しよう！」を実施した (8/3, 18)。
- ・ 展示期間中に会場内でスタンプを押して完成させる「スタンプ昆虫採集図鑑」を配布した (7/10-9/2)。
- ・ 野鳥観察舎で冬の企画展「おもしろたのしい生きものの名まえ」を開催した (11/13-1/20)。
- ・ 展示期間中に冬の企画展特別イベント「生きものネームプレートづくり」を実施した (12/21, 22)。
- ・ 展示期間中に会場内でスタンプを押して完成させるスタンプラリーを実施した (11/13-1/20)。

③ その他の主な展示

- ・ 野鳥観察舎に企画展がない時期にも、以下のまとまった展示更新を実施した。
「アジサイとカタツムリ」(6/12-7/8)

「宍道湖周辺のガン・コハクチョウたち」(9/4-11/11)

「世界湿地の日(WWD2020)・2019年度ラムサール探偵団活動紹介」(1/22-3/16)

「は～るよ、こい♪生きものたちの新年度」(3/18-5/25)

- ・島根県主催の平成31年度愛鳥週間用ポスター図案コンクール入賞作品の展示(4/27-5/19)に協力した。
- ・斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会主催の写真巡回展「大型水鳥と水辺の大自然」に協力した(1/29-2/17)。

④その他

- ・グリーンパーク利用者(主に団体)の申し込みに応じて観察プログラム等の対応をした(年間59回、のべ1,752人)。
- ・パークボランティア(16名)を登録し、観察会の企画実施のほか、イベントや園内の作業補助などに関わった。
- ・パークボランティアの連絡誌を発行(36-39号)したほか、研修旅行を実施(2/27-28)した。
- ・宍道湖グリーンパーク&ゴビウスラムサール探偵団の活動紹介として宍道湖自然館ゴビウスの「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」壁面を利用して展示した(1/22-3/9)。

(2) ふるさと尺の内公園で以下の企画を実施した。

- ・定例自然観察会を10回実施した(5,9月を除く各月1回)。
- ・ポール・スミザー氏の講演会とワークショップを各2回開催した。
 - 5/19「ふるさと尺の内公園 地域の自然環境を活かす公園づくり」
「ガーデンウォーク in ふるさと尺の内公園」
 - 9/8「自宅の庭にも自然を呼ぼう!～実践ナチュラルガーデンづくりのポイント」
「ナチュラルガーデンづくりワークショップ in ふるさと尺の内公園」
- ・地元小学校等の希望に応じて自然観察等の対応をした(年間4回、54人)。

(3) 野生生物研究所関係で以下の企画を実施した。

- ・ホシザキ野生生物研究所研究報告会を開催した(1/19,21;出雲市民会館)。
- ・実習室で宍道湖学習講座「シジュウカラガン復活物語-仙台平野での取り組み-」(講師:日本雁を保護する会会長 呉地正行氏)を開催した(1/25)。
- ・ニュースレター「HOWP」を発行(54-57号)し、自然情報等の発信に努めた。

(4) その他

- ・学校や地方公共団体等が主催する観察会や研修会等に講師を派遣した(年間4回)。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対応として、3月に予定されていた観察会やイベント等の開催を自粛した。

6. 情報収集発信事業（定款第4条 第1項 第1、4、5号該当事業）

- (1) 文献、標本、写真、映像などの資料収集・整理につとめた。
 - ・文献は、購入399冊、寄贈・交換1,691冊、計2,090冊を取得した。
- (2) 鳥類等の観察情報について職員の記録や宍道湖グリーンパークに寄せられる情報をデータベースに入力した。
- (4) 新たに撮影した野鳥の動画素材を整理して保管するとともに、昨年度の撮影素材とあわせて普及啓発用として宍道湖の大型水鳥とカモ類を紹介する映像を編集したほか、観察舎解説ガイド用の映像（ミサゴの魚捕り、マガンの渡去など5種）を追加した。

7. 地方公共団体からの受託事業（定款第4条 第1項 1、3、4号該当事業）

- (1) 島根県立宍道湖自然館管理運営業務（指定管理、主管課：島根県水産課）

宍道湖自然館ゴビウスの管理運営を行い、普及啓発や調査研究などの各種事業を実施した。
詳細は別資料（宍道湖自然館館報 No. 18）。
- (2) 自然環境調査研究業務（委託：出雲市）

出雲市内の河川（佐田、出雲、斐川地域 25 ヶ所）の水生動植物の調査を行ったほか、小冊子「出雲市の川の生きものたち～佐田・斐川・出雲地域の自然環境調査～」(31頁)を作成した。
- (3) ガン・カモ類生息調査業務（委託：島根県森林整備課）

宍道湖、中海、神西湖、高津川、蟠竜湖でカモ科鳥類の個体数調査を実施した（1/12）。

II. 管理部門

1. 監査

令和1年5月1日に、高橋良昌監事、吉田孝監事により平成30年度一般会計及び業務の監査を受け、会計および業務とも適正と認められた。

2. 理事会

令和1年5月16日 第1回理事会

- ・平成30年度の事業報告を承認
- ・平成30年度の決算報告を承認
- ・定時評議員会（第2回）開催および開催日時を承認

令和1年5月31日 第2回理事会

- ・議長、議事録署名人の選任について承認
- ・平成30年度事業報告を報告
- ・平成30年度決算報告を報告

令和1年9月17日 第3回理事会

- ・尺の内公園内の土地をホシザキ株式会社所有地と交換する件を承認

令和2年2月28日 第4回理事会

- ・令和1年度収支予算の変更を承認
- ・令和2年度事業計画を承認
- ・令和2年度収支予算を承認
- ・評議員会の開催及び開催日時を承認

令和2年3月9日 第5回理事会

- ・「就業規則」と「育児・介護休業規程」の一部変更について承認

令和2年3月20日 第6回理事会

- ・ホシザキ株式会社第74期株主総会議案の賛否について承認
- ・坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社株主総会議案の賛否について承認

3. 評議員会

平成31年4月12日 臨時評議員会(第1回)

- ・評議員の辞任とその補充選任について承認

令和1年5月31日 定時評議員会(第2回)

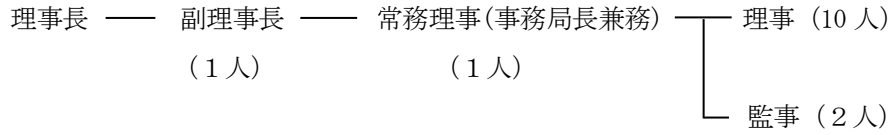
- ・議長、議事録署名人の選任について承認
- ・平成30年度事業報告を承認
- ・平成30年度決算報告を承認

【組織】

理事長以下理事 12 名、監事 2 名、評議員 7 名、職員 37 名で管理運営にあたった。

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

(1) 役員



(2) 評議員

評議員 (7 人)

(3) 職員

